

VII 廃棄物処理とリサイクル

1 ごみ処理

(1) ごみ処理の現況

本市における平成30年度のごみ搬入量は、29年度と比較して約1%減少しています。

本市では、ごみを適正に処理することが、公衆衛生の向上及び市民の生活環境の保全に極めて重要なことと捉えています。

平成15年8月に竣工した清掃センターは、ダイオキシン類対策特別措置法に適合する施設で、ガス化熔融方式を採用し、排出ガスのクリーン化と廃熱のエネルギーを再利用した発電を行い、エネルギーの有効利用や環境に配慮した施設としています。

清掃センターから発生する焼却残さは、平成22年4月から東鴻之巣最終処分場への埋め立てを開始しましたが、処分場延命化のため、焼却残さの一部を23年3月に武豊町に竣工した（公財）愛知臨海環境整備センター（アセック）衣浦港3号地廃棄物最終処分場へも搬入しています。

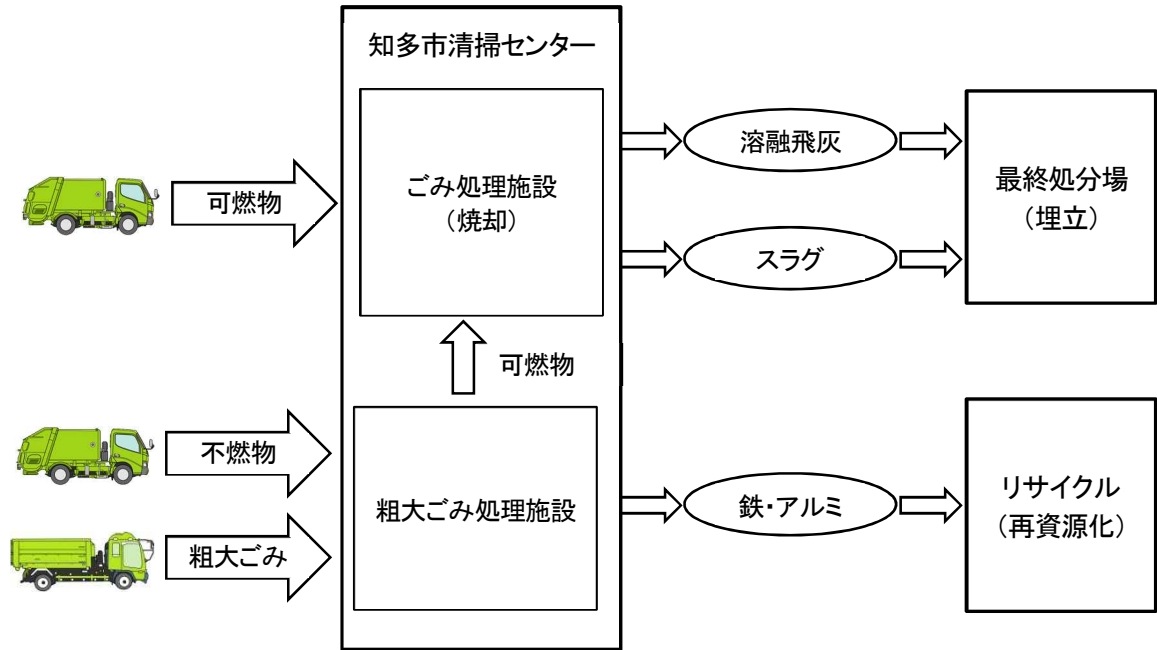
平成29年4月からは、「家庭系収集ごみの有料化」と「資源回収品目の拡大」を実施し、ごみの減量と資源化の推進に向けた取組を段階的に進めています。

平成30年7月からは、清掃センター及びリサイクルプラザで水銀使用廃製品（蛍光灯、水銀温度計・体温計・血圧計）のボックス回収と、市内4カ所でのプラスチック類（トレイ類、食品用プラスチック容器、発泡スチロール）の拠点回収を試行的に実施することで、水銀使用廃製品の適正な処理の推進と、資源の回収機会の拡大を進めています。

さらに、平成29年3月に改定した「知多市ごみ処理基本計画」の中で、重点的に取り組む事項のひとつとして挙げた「ごみ処理施設の広域化への対応」については、第2次愛知県ごみ焼却処理広域化計画における知多北部ブロックの「知多北部地域ごみ処理広域化計画」に基づき、東海市との広域処理に向け、西知多医療厚生組合を事業主体としてごみ処理施設の令和5年度完成を目指しています。

(2) ごみ処理の流れ

ごみを安全かつ適正に処理し、私たちの生活環境だけでなく、地球環境も守ります。



(3) ごみ搬入量

(単位：t)

区分	収集形態	ごみの種類	年 度			3か年平均
			H 2 8	H 2 9	H 3 0	
家庭系 ごみ	定期 収集	可燃物	16,080	14,082	13,791	14,651
		不燃物	1,415	1,092	1,066	1,191
	戸別 収集	粗大ごみ (不燃物に含む)	86	100	86	91
	直接 搬入	可燃物	1,411	966	1,104	1,160
不燃物		810	399	473	561	
事業系 ごみ	直接 搬入	可燃物	4,239	4,109	4,051	4,133
		不燃物	0	0	0	0
小 計		可燃物	21,730	19,157	18,946	19,944
		不燃物	2,311	1,591	1,625	1,842
合 計			24,041	20,748	20,571	21,787

(4) 収集状況

- 可燃物
指定ごみ袋によるステーション方式 週2回
- 不燃物
指定ごみ袋によるステーション方式 月2回
- 粗大ごみ
排出者が許可を得て直接搬入
有料で戸別収集 (2tダンプ10,800円、軽ダンプ5,400円)

(5) 知多市清掃センター

所在地	知多市北浜町11-4
敷地面積	32,996 m ²
延床面積	11,881 m ² (管理棟 974 m ² ・工場棟 10,244 m ² ・その他 663 m ²)
構造	管理棟 — 鉄骨造 2階建 工場棟 — 鉄筋コンクリート・鉄骨造 5階建
総工費	8,715,000,000 円 (平成15年8月竣工)
内容	処理能力 — ごみ処理施設 130t/日 (65t/日×2炉) 粗大ごみ処理施設 35t/日 (5h) 処理方式 — ガス化溶融方式 (分離型)

(6) 東鴻之巣最終処分場

所在地	知多市八幡字東鴻之巣36-2
敷地面積	30,180 m ²
総工費	1,716,961,600 円 (平成22年3月竣工)
内容	埋立地 埋立面積 12,400 m ³ 埋立容量 57,600 m ³ 浸出水処理施設 逆浸透膜処理方式 50 m ³ /日 調整槽容量 3,200 m ³ 埋立対象物 溶融飛灰 (セメント固化)、スラグ、 コンクリートガラ (家庭用)

2 し尿処理

(1) くみ取り状況

下水道等人口普及率が95.4%（平成30年度末）と高いため、くみ取り世帯数は少なくなっています。

区分 年度	くみ取り世帯数	くみ取り量 (L)	1日平均 くみ取り量 (L)	日数
H26	338	788,280	3,166	249
H27	314	807,410	3,323	243
H28	291	839,600	3,498	240
H29	280	1,144,090	4,767	240
H30	266	758,290	3,160	240

(2) し尿くみ取り手数料

○ 定額割

世帯割	1 か月	1 世帯	250 円
人頭割	1 か月	1 人	250 円
超過料	1 回		720(730) 円

○ 従量制 18Lにつき 154(156) 円

※ () 内は、消費税率改定（令和元年10月1日）以降の手数料

(3) 処理施設

西知多医療厚生組合（知多市と東海市で組織する一部事務組合）

所在地	知多市三反田3丁目1番地の2
敷地面積	72,636 m ²
建物面積	1,836 m ²
延床面積	3,636 m ²
構造	鉄筋コンクリート造 地下1階 地上3階建
総工費	3,961,380,000 円（平成8年3月竣工）
内容	処理能力 100kL/日
	処理方式 高負荷脱窒素処理方式 + 高度処理

3 リサイクル

(1) リサイクルの推進

今日、地球的規模で環境問題が大きな課題となっており、地球にやさしいまちづくりが求められてきています。知多市では、平成4年度に知多市方式の資源回収システムを確立し、順次実施地域を拡大していった結果、平成9年3月に全市で資源回収をスタートしました。また、平成7年4月に開館したリサイクルプラザでは、回収した資源の選別・加工のほか、広く市民が学びふれあうことができるよう、リサイクルに関する各種教室の開催や情報の提供を行うなど循環型社会の構築を目指した事業を推進しています。

(2) 知多市方式資源回収

- 資源の有効利用とごみの減量を目的とした資源回収を行う。
- 回収方法として、市が回収、精選(圧縮、梱包)、売却を行う地域回収と、市民団体が行う資源回収に対して奨励金を支払うことにより支援する集団回収の2方式を実施する。

【地域回収】

○回収品目

新聞、ダンボール、雑誌、アルミ缶、スチール缶、生きびん、無色びん、色付びん、布類、牛乳パック、ペットボトル、白色トレイ、廃食用油

※ 平成29年4月より、その他缶類、その他資源(有色トレイ・プラスチック製容器(食品用)・発泡スチロール・ペットボトルキャップ・使用済み乾電池)を追加

○回収頻度

1回/月

○排出時ルール

資源のはだか出し及び缶、びん、ペットボトルの洗浄、地域住民による分別排出指導

○報償金

資源売却金を交付する。

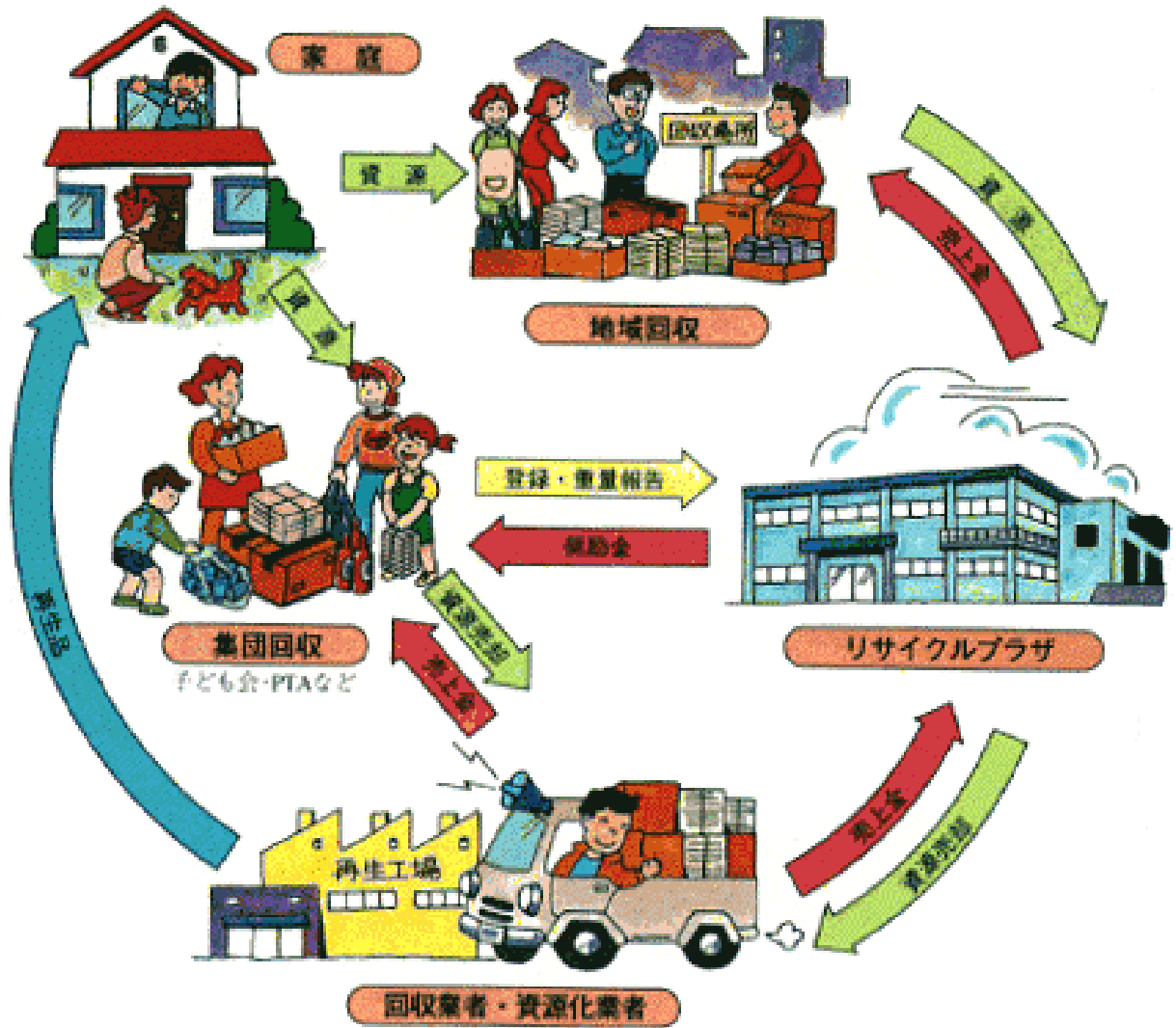
【集団回収】

○登録団体に対し、回収量に応じて奨励金を支払い、集団回収を支援する。

○回収日の設定、品目、売上金の調整及び回収作業等すべての調整は各団体がを行い、市は奨励金の支払業務を行う。

○1kg当たり4円の奨励金を交付する。

知多市方式資源回収



(3) 資源回収実績

【年度別地域回収状況】

区 分		H 2 8	H 2 9	H 3 0
実施地区数		70	70	70
品 目 別 回 収 量 (t)	新 聞	746	671	585
	ダンボール	217	205	184
	雑 誌	382	398	367
	アルミ缶	33	31	29
	スチール缶	10	10	9
	生きびん	16	16	14
	無色びん	78	96	87
	色付びん	72	87	80
	ペットボトル	66	64	63
	衣 類	54	61	62
	牛乳パック	13	15	15
	白色トレイ	2	3	2
	その他缶類	—	11	8
	有色トレイ・プラスチック製 容器（食品用）・発泡スチロール	—	21	24
	ペットボトルキャップ	—	5	5
使用済み乾電池	—	4	5	
合 計		1,689	1,698	1,539

【集団回収状況】	平成30年度
登録団体数	42団体
資源回収量	434t

(4) 知多市リサイクルプラザ

所在地	知多市南浜町 2 2 番地の 2
敷地面積	11,498.15 m ²
延床面積	2,754.29 m ² (内増設部分 456.77m ²)
構造	鉄骨造 2 階建
総工費	792,070,000 円 (平成 7 年 3 月竣工、増設部分除く)
内容	プラザ部分 — 研修室、リサイクル情報センター、 体験学習室、展示コーナー、見学者通路
	工場部分 — プラットホーム、搬入室、手選別室、 缶ライン、ストックヤード
	管理部分 — 事務室、職員控室
保管庫	— 平成 1 4 年 1 2 月